

今月の

スポットライト

Vol. 20

このコーナーでは、いま話題の
ヒト・モノ・コトを紹介します。

今月は、『自由楽校 ゆめまある』
の楽長 荒瀬さんに話を伺いまし
た。

ボランティア活動

小学生の時に不登校になった経
験から、手話サークルを通じてボ
ランティア活動に居場所を見いだ
しました。

手話サークルなど、自分にとつ
て落ち着ける居場所や仲間を見つ



(一社)かわたな夢キッズ
代表理事 荒瀬 奈穂子 さん



けたこともあり、中学進学タイ
ミングで学校へも行けるようにな
りました。

高校では、JRC(ジュニアレッ
ドクロス(青少年赤十字))部に入
部。部長を務め、募金や献血の呼
びかけなどのボランティア活動や
他校との合宿の企画、全国大会へ
の出場など、勉強以外の学びも
多かったです。

また、続けていた手話も、幼児
や小学生向けに教えるほど上達し、
通訳などのボランティア活動にも
参加。全国大会に出場した経験も
あります。

パフォーマーで笑顔を

進学先の日本福祉大学では社会
福祉を学ぶと同時に、大道芸のサー
クルに入り、ボランティアで訪問し
た施設で芸を披露。その後、愛知
万博で半年、上京して10年、プロ
パフォーマーとして全国各地や海
外で笑顔の時間を届けてきました。



『自由楽校 ゆめまある』 OPEN

学校生活にうまくなじめない我
が子。子どもの居場所を探すも見
つけられない親。同じ悩みをもつ
家族と知り合い、自分たちの手で
「居場所」を作ろうと、集まった仲
間と共に、一般社団法人かわたな
夢キッズを立ち上げました。

不登校の当事者親子を集めて居
場所づくりプロジェクトを実施。
「親の会」「親子の会」(それぞれ月
1回)などを開催しながら、1年
の準備期間を経て『自由楽校 ゆ
めまある』をオープンしました。

子どもたちの力に

優しく声をかけてもらったり、
愛されていると感じられることが、
子どもたちの力になると思ってい
ます。

この町の子どもたちが川棚町の
ことを「大好き」と思えるように、
町の皆さんの力をお借りしながら、
子どもたちの豊かな未来につなげ
ていけたらと願っています。

子ども達と荒瀬さんで考えた
夢のような間がある居場所
(時間・空間・仲間・隙間・瞬間)

